

2023年度

環境経営レポート



TAIYO YUSHI

太陽油脂株式会社

太陽の恵み
人にやさしく地球にやさしく

発行日：2024年06月28日

目次

1 組織の概要	P.3
2 対象範囲	P.3
3 環境経営方針	P.4
4 環境経営管理実施体制	P.5
5 環境経営目標	P.6
6 環境経営計画	P.6 - 7
7 環境経営目標の実績	P.7 - 8
8 環境経営活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組	P.9 - 10
9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P.10 - 11
10 代表者による全体評価と見直しの結果	P.11
11 その他環境経営報告	P.12 - 19



1

組織の概要

事業所名及び代表者名

太陽油脂株式会社
代表取締役社長 中山 悟

所在地

神奈川県横浜市神奈川区守屋町 2-7

環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者：製造技術グループ グループリーダー 金井 一徳
TEL：045-441-4962 FAX：045-441-9671

事業の概要

①事業内容

加工油脂部門：ショートニング、マーガリン類、
その他食用加工油脂および油脂加工製品の製造販売

石けん・化粧品部門：家庭用・業務用石けん、シャンプー、ハミガキ類、
化粧品の製造販売

飼料部門：飼料用脂肪酸カルシウムの製造販売

②事業規模

生産量：67,197t / 年（食品 66,005t / 年）

従業員数：304人（2024/4 現在、
従業員 245名 + 構内協力会社人数 59名）

延べ床面積：14,638.46㎡

2

対象範囲

1) 認証・登録範囲（2009年認証取得）

加工油脂部門：ショートニング、マーガリン類、その他食用加工油脂および油脂加工製品の製造販売

石けん・化粧品部門：家庭用・業務用石けん、シャンプー、ハミガキ類、化粧品の製造販売

飼料部門：飼料用脂肪酸カルシウムの製造販売（2021年度登録）

2) レポートの対象期間及び発行日

対象期間：2023年04月01日～2024年03月31日

発行日：2024年06月28日



一滴の油から、やさしさを広げる。「やさしさ」誰もが持つこの気持ちを、私たちははぐくみ、届けてきました。何気ない日常がほほえみでつまれるように、私たちは人を想い、自然を想う。生活が大きく変わり、不安を抱える今だから、もう一度あなたと共にやさしさを考えたい。100年後も、その先も、やさしさで繋がる未来を目指して、環境経営方針を掲げます。

A-KE002-07-0
改訂日 2024年02月16日

環境経営方針

太陽油脂は、「太陽の恵み 人にやさしく地球にやさしく」と掲げたスローガンのもと、誠実をモットーに、確かな技術とモノづくり精神に裏付けられた、人と、地球にやさしい、安心・安全な製品の提供と各種の経営活動を通じて、心豊かで健康的な暮らしと社会・自然の持続可能な発展に貢献するため以下の環境経営方針を定めます。

1. 環境、社会との共生に視点を置いた企業活動
 - 1-1、太陽油脂は重要な社会的課題・環境問題に真摯に対応する経営の実践を通じて社会的責任を果たしていきます。
 - 1-2、太陽油脂は「人、社会そして環境への貢献」を考えた具体的な経営活動・事業活動を積極的に展開していきます。
2. 人と環境に優しい製品の提供
 - 2-1、太陽油脂は、「人と、地球にやさしい」に拘った食用油脂製品と石けん製品を通じて、お客様に豊かで「安心・安全な生活」とともに「環境にやさしい生活」をも提供していきます。
 - 2-2、太陽油脂は、原料調達・生産から製品使用までの企業活動のあらゆる段階での環境への取り組みにおいて、環境関連法規、自主ルール等を順守しつつ「省資源・省エネルギー」「排水・廃棄物削減、リサイクル」等を継続改善していきます。
 - 2-3、太陽油脂は、「食品廃棄物の発生抑制、再生利用」等による食品資源の有効利用を推進していきます。

太陽油脂は、この環境経営方針の全従業員への周知徹底を行い全員参加による環境、社会との調和を目指した企業活動を推し進めていきます。

2024年02月16日
太陽油脂株式会社
代表取締役社長 中山 悟

太陽油脂のSDGs重点テーマ

私たちは、自社の取り組みをSDGsの17のゴールと169のターゲットと照らし合わせ、事業との関連性で重要度を評価しました。

そして以下の8項目を重点テーマとし、積極的にSDGs（9つのゴール）へ取り組んでいきます。





実施体制役割説明

代表者（社長）：環境経営システムの構築・運用に必要な経営諸資源を準備する

環境経営に関する、基本理念、長期戦略及び基本方針等に基づき、環境経営方針を定める
環境経営システムの構築・運用に関する情報を収集し、環境経営システムの見直しを行う

環境管理責任者：環境負荷と環境への取組状況の把握と評価を行い、結果を社長に報告する

環境関連法規等の取りまとめを行い、結果を社長に報告する
環境経営目標及び環境経営計画の策定を行い、社長の承認を得る
部門（部署）の「環境経営計画・実施状況・評価表」を承認し、活動の推進を図る

EA21事務局：環境管理責任者を補佐し、全社環境関連データの集計及び管理保管を行う

全社の環境経営活動の運用状況を把握し円滑かつ効率的な活動となるよう総合調整を行う

CSR委員会：企業情報及びリクルート・CSR・SDGs・プロモーション等の活動において、一貫性を持った外部発信力を高め、
企業ブランド・商品ブランド認知及び社会価値の向上を図るための検討・決定機関として活動する。

各部門長（各部署長）：部門（部署）の環境経営システムの構築・運用の責任者としてその任に当たる

部門（部署）の従事者に対して、環境経営システムに関する教育・訓練を行う
自部門（部署）の「環境経営計画・実施状況・評価表」を作成し、推進する

環境活動推進委員：部門（部署）長を補佐し部門（部署）の環境経営システムの事務局として事務手続き等の実務を遂行する

全従業者：部門（部署）の推進委員を補佐し部門（部署）の環境経営システムの事務手続き等の実務を遂行する

部門（部署）の環境経営システムを理解し食品リサイクル及び環境問題を継続的に改善する活動を行う

5

環境経営目標（2022年度設置）

2020年度～2022年度までの実績を踏まえ、2023年度～2025年度の環境目標は以下の通りです。
 （尚、2022年度の二酸化炭素排出係数（東電）は0.456（kg-CO₂/kwh）を使用）

（年度：4月～3月 以下同じ）

製品生産量当たり	基準年度実績 2022年度	基準年度比 2023年度目標	基準年度比 2024年度目標	基準年度比 2025年度目標
二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂ /t)	195.27	83.00%	79.00%	75.00%
産業廃棄物排出量 (t/t)	0.0301	97.00%	95.00%	93.00%
食品廃棄物の発生抑制 (t/t)	0.02595	99.00%	96.00%	93.00%
食品リサイクル リサイクル率 (%)	97.55%	97%以上	97%以上	97%以上
排水量 (m ³ /t)	3.70	99.00%	95.00%	91.00%
化学物質使用量 (kg/t)	0.0410	97.00%	93.00%	89.00%
グリーン購入 (作業着、事務用品、文具 等の対象品の購入実施率)	98.47%	95%以上	95%以上	95%以上
環境配慮設計の要素品の比率 (石けん・化粧品事業)	100%	97%以上	97%以上	97%以上
地域とのコミュニケーション (石鹸学習会など参加人数)	1,517名/年	2,000人/年	2,000人/年	2,000人/年

6

環境経営計画（2023年度）

環境経営計画	取組み内容	
二酸化炭素 排出量削減 <排出係数 0.456kgCO ₂ /kWh> 2022年度比 83%以下	電気使用量 原単位削減 2022年度比：98.0%以下	①工程の短縮・作業効率の改善を行い生産性を上げる ②不適合品の発生を削減し生産性を向上し原単位改善につなげる ③非化石証書（カーボンオフセット）を30%以上取得する ④在宅勤務継続、服装の軽装化（6月～10月、クールビズの実施） ⑤空調温度、夏期27～28℃、冬期20～22℃を徹底する ⑥蛍光灯及び屋外灯を計画的にLED照明に更新する
	都市ガス使用量 原単位削減 2022年度比：97.0%以下	①脱臭機の製造条件を調整し省エネ運転にする ②ボイラー運転台数制御や蒸気圧力調整を行い効率化 ③廃油利用で熱源を得る（パイロボイラー稼働効果検証） ④工程の加熱条件を見直し過剰加熱を修正する ⑤蒸気トラップ、漏れ補修、保温強化しエネルギーロスを低減する ⑥工程の短縮改善を行い生産性を上げる
産業廃棄物 総廃棄量削減 2022年度比 97%以下	一般廃棄物排出量 原単位削減 2022年度比：95.0%以下	①一般廃棄物は単純焼却ごみから再利用へ分別を徹底する 持ち込まない、持ち込んだものは持ち帰る ②紙及び廃プラのリサイクル化推進（FSCなど素材の選択）
	廃白土量原単位削減 2022年度基準に：98%以下	①品目を選定し白土添加量を削減する ②廃白土油分を削減する ③小集団活動取組みにて不適合品を削減する
食品廃棄物 発生抑制 2022年度比 99%以下	食品廃棄物 発生量削減 2022年度比：98%以下	①顧客コミュニケーション、品種統合を行う ②販売計画に見合う生産量で賞味期限切れ製品を削減する ③遠心脱油設備による油水分離 ④全社活動として不適合品を削減する
	食品リサイクル率 97%以上	①再資源化率を監視し、食品リサイクル率97%以上を継続維持する ②不適合品発生を抑制、また資源化油として利用する

環境経営計画		取り組み内容
総排水量削減 2022年度比 99%以下	水使用量 原単位削減 2022年度比：94%以下	①冷却水の循環利用 ②洗浄方法の見直しや洗浄水の適正使用により水使用量を削減する（過剰量を削減） ③水利利用先の運用調査（ムダ利用の抑制）
化学物質 使用量削減 2022年度比 97%以下	化学物質使用量 原単位 2022年度比：97%以下	①使用量の適正管理実施 ②分析機器更新により溶剤使用を削減する ③触媒使用量の削減、リサイクルの実施
グリーン購入推進	グリーン購入実施率 95%以上	①グリーン購入対象品リストに従って、事務用品・文具を購入する ②購入部署はリストにある備品購入へ誘導する
環境配慮設計	環境配慮設計 の要素品の比率 97%以上維持	①RSPO使用製品、精製条件に基準を設定した製品開発 ②化学物質を使用せず石けんをベースにした商品開発 ③石けん化粧品自社製品については、RSPO認証（パーム油）、FSC森林認証、共に100%の製品設定に切替えていく
地域とのコミュニケーション	地域との コミュニケーション 2,000人/年以上	①工場見学会、手作り石けん教室、環境講演会（MANABIYA）を開催する ②地域清掃活動の継続実施（本社工場～入江橋周辺） ③コロナ禍対応として、Webリモートや出前による教育会を行う

7

環境経営目標の実績

① 二酸化炭素排出量原単位：kg-CO₂/t

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
年度目標（%）（数値以下）	基準年	83.00	79.00	75.00
年度実績（%）：2022年度比	—	92.92	—	—
評価	基準	△あと一步	—	—
CO ₂ 排出量（t）	12,706	12,193	—	—
非化石証書調達量（t）	—	1,832	—	—

（目標以下〇）

② 総産業廃棄物量原単位：t/t

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
年度目標（%）（数値以下）	基準年	97.00	95.00	93.00
年度実績（%）：2022年度比	—	119.10	—	—
評価	基準	×未達成	—	—

（目標以下〇）

③ 食品廃棄物発生量原単位：t/t

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
年度目標（%）（数値以下）	基準年	99.00	96.00	93.00
年度実績（%）：2022年度比	—	78.99	—	—
評価	基準	〇達成	—	—

（目標以下〇）

④ 食品リサイクル率 (%)

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
年度目標 (%) (数値以上)	基準年	97.00	97.00	97.00
年度実績 (%) : 2022年度比	97.55	94.40	—	—
評価	基準	×未達成	—	—

(目標以上○)

(2023年度内訳)

①発生量 (t)	1,353.2	⑤減少量 (t)	0.0
②発生抑制量 (t)	337.7	⑥再生利用等以外の量 (t)	71.4
③再生利用量 (t)	810.6	⑦廃棄物としての処分量 (t)	0.0
④熱回収量 (t)	471.2	⑧再生利用等の実施率 (%)	94.4

※化石原料由来の脱プラスチックに向けて、「生分解性プラスチック用途」として、廃油 71.4t の再資源化推進。食品リサイクル法では現段階で計上できない扱いとなった。よって⑥再生利用等以外の量が多くなり、再生利用等の実施率が低くなっている。

⑤ 総排水量原単位 : m³/t

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
年度目標 (%) (数値以下)	基準年	99.00	95.00	91.00
年度実績 (%) : 2022年度比	—	100.46	106.92	—
評価	基準	×未達成	—	—

(目標以下○)

⑥ 化学物質使用量原単位 : kg/t

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
年度目標 (%) (数値以下)	基準年	97.00	93.00	89.00
年度実績 (%) : 2022年度比	—	94.15	—	—
評価	基準	○達成	—	—

(目標以下○)

⑦ グリーン購入実施率 (%) (作業着、事務用品、文具のグリーン購入実施率)

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
年度目標 (%) (数値以上)	—	95.00	95.00	95.00
年度実績 (%)	98.47	97.96	—	—
評価	基準	○達成	—	—

(目標以上○)

⑧ 環境配慮設計 (石けん化粧品事業) : 品/品・年

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
年度目標 (%) (数値以上)	—	97.0	97.0	97.0
年度実績 (%)	97.0	100.0	—	—
評価	基準	○達成	—	—

(目標以上○)

⑨ 地域とのコミュニケーション (石けん学習会など) : 人/年

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
年度目標 (人/年) (数値以上)	—	2,000	2,000	2,000
年度実績 (人/年)	1,438	1,278	—	—
評価	基準	×未達成	—	—

(目標以上○)

〈評価方法〉

- : 達成 目標値達成
- △ : あと一歩 目標値に達していないが 80% の変化がある
- × : 未達 目標値未達成



環境経営計画		取組結果とその評価・＜次年度の取組＞
二酸化炭素 排出量原単位削減 ＜東電：排出係数 0.456kg-CO ₂ /kWh＞ 2022年度比 83%以下 結果 2022年度比 92.92% (評価：△あと一歩)	電気使用量 原単位削減 2022年度比：98.0%以下	目標（2022年度比：98%）⇒結果（67.22%）（年度評価：○達成） 67.22%・・・非化石証書分差し引き後の年度比 104.29%・・・単純前年度比 ＜次年度取組＞ ①非化石証書（カーボンオフセット）を40%取得（実績3.980kWh、CO ₂ で1,528t減） ②空調設備の更新、照明のLED化、省エネ機器設置による効率向上 ③設備保全の強化、設備起因のロス削減で生産性向上 ④製造条件の過剰設定を見直しエネルギー原単位を減 ⑤不適合品の発生を削減し生産性を向上
	都市ガス使用量 原単位削減 2022年度比：97.0%以下	目標（2022年度比：97.0%）⇒結果（72.72%）（年度評価：○達成） パイプロボイラー稼働でガス量約294千m ³ 、CO ₂ 削減660t-CO ₂ の効果 ＜次年度取組＞ ①脱臭機の条件改善による省エネ運転を確立 ②製造条件見直しにより、過剰な蒸気使用量を削減する ③熱交換設備を導入するなどエネルギー再利用を増やす ④設備保全の強化、設備起因のロス削減で生産性向上 ⑤不適合発生を削減し、再製造等で発生するエネルギー使用を削減する
産業廃棄物排出量 削減 目標：2022年度比 97% 結果119.1% (評価：×未達成)	一般廃棄物排出量 原単位削減 2022年度比：88.0%以下	目標（2022年度比：88.0%）⇒結果（89.89%）（年度評価：△あと一歩） ＜次年度取組＞ ①資材・製品在庫の持ち方を見直し、不良在庫の廃棄量を削減する ②リサイクル対象物を再設定し資源化強化 ③監視カメラ映像にてごみの分別状況点検、指摘・改善の実施 ④産業廃棄物排出量未達成の要因は、排水処理設備からの汚泥排出量の増加である。この要因となった排水温度を監視、改善策（冷却設備）を設置する
	廃白土量削減 2022年度比：98%以下 25.19kg/t以下	目標（2022年度比：98%以下）⇒結果（104.6%）（年度評価：×未達成） 25.19kg/t⇒26.35kg/t ＜次年度取組＞ ①製造頻度の高い品目を主に色調管理し白土量削減を行う ②廃白土含油率を下げる圧搾処理設備を増強する
食品廃棄物 発生抑制 目標：2022年度比 99%以下 結果：78.99% (評価：○達成) リサイクル率97%以上 結果98.26% (評価：○達成)	食品廃棄物 発生量削減 2022年度比：99%以下 1750t以下	目標（2022年度比：99%以下）⇒結果（78.99%）（年度評価：○達成） 1750t⇒1353.19t（パイプロボイラー燃料380.80t） ＜次年度取組＞ ①油水分離回収設備の運用強化し廃油の資源化を増やす ②資材・製品在庫で賞味期限などで発生する不良在庫の廃棄量を削減する ③製造条件を環境配慮設計のもと改定を進める ④パイプロボイラーの安定稼働
	食品リサイクル率 97.0%以上	目標（97.0%以上）⇒結果（98.26%）（年度評価：○達成） ＜次年度取組＞ ①不適合品発生を抑制と再資源化率の監視活動を継続実施する
総排水量削減 目標：2022年度比 99%以下 結果100.46% (評価：×未達成)	水使用量 原単位削減 2022年度比：99%以下 (3.96m ³ /t以下)	目標（2022年度比：99%以下）⇒結果（108.98%）（年度評価：×未達成） 3.96以下⇒4.32 ＜次年度取組＞ ①排水が定期的に発生する現場を再点検し、要不要を確認し削減方法を設定する ②洗浄制御に過剰が無い確認・見直し、水使用量を削減する ③排水冷却設備を増設し、工程での水冷却投入量を下げる ④水の計測装置を設置し負荷変動を把握、そこから削減案を立て実施する
化学物質 使用量削減 目標：2022年度比 97%以下 結果94.15% (評価：○達成)	化学物質使用量 原単位 2022年度比：97%以下 (0.0398 t/t以下)	目標（2022年度比：97%以下）⇒結果（94.15%）（年度評価：○達成） 0.0398⇒0.0386 ＜次年度取組＞ ①化学物質使用機器の更新など機能UPを行い使用量の縮小を図る ②分析方法や分析機器の変更などで溶液使用を減する ③分析項目の要不要の見直しを行う
グリーン 購入推進 目標：95%以上 結果97.96% (評価：○達成)	グリーン購入 実施率推進 95%以上	目標（95%以上）⇒結果（97.96%）（年度評価：○達成） ＜次年度取組＞ ①定期的に購入する備品はグリーン購入対象品を選択する ②グリーン購入対象品を選択できた商品を全社横展開する
環境配慮設計 目標：97%以上 結果100% (評価：○達成)	環境配慮設計 (97%以上) 石けん化粧品事業	目標（97%以上）⇒結果（100%）（年度評価：○達成） ＜次年度取組＞ ①生分解性プラスチックの採用を行い設計に組み込む ②石けん化粧品の自社新製品はRSPO100%、FSC100%対応を継続する
地域との コミュニケーション 目標2000人/年 結果1278人/年 (評価：×未達成)	地域との コミュニケーション (2000人/年)	目標（2000人/年）⇒結果（1,278人/年）（年度評価：×未達成） ・地域学校や修学旅行生を迎える対応をしたが目標人数には届かなかった ＜次年度取組＞ ①サステナブルスクール「MANABIYA」を横浜市とも連携し開催する ②修学旅行生を受入れ継続 ③町内会や消費者団体の積極的な受入れ実施

＜評価について＞ ○：達成 目標値達成
 △：あと一歩 取り組み開始されており、目標値に達していないが概ね（達成率80%程度）削減或いは抑制効果が確認されている
 ×：未達成 目標値未達成（80%未満）

1) 主要な取り組みの総括評価

熱エネルギーは脱臭機の運転条件見直しと、パイロボイラーを稼働したことで削減できている。

電気エネルギーは後工程の増産があり電気量は増加傾向にある、非化石証書の購入でカーボンニュートラルを進めているが、CO₂原単位は2022年度比減ではあるが目標まで下げることはできなかった。2024年度は熱交換設備利用や水量管理を上げ、水処理に要す電力削減も行う。一般廃棄物は、排水処理設備からの汚泥排出量の増加があり未達成となった。排水冷却設備を設置するなど、排水負荷軽減対策を進める。廃棄物管理は、分別方法について再教育を行い強化する。監視カメラで実態把握を定期的に行い量が多いモノについては発生源側の状況をつかみ改善策を設置する。

水・排水量については未達成、水利用側の実態把握を行うため、水の使用系統を整理し適正な使用量をおさえることから始め、削減対象を明確にする。

9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1) 適用法令等の遵守状況の確認及び評価の結果

適用法令等	対象施設	遵守状況の確認及び評価の結果	遵守状況
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	全社	「公害防止統括者（同代理者）選任・解任届出書」、「大気関係公害防止管理者（同代理者）選任・解任届出書」、「水質関係公害防止管理者（同代理者）選任・解任届出書」	○
大気汚染防止法	ボイラー、ガスエンジン、悪臭	「ばい煙発生施設（使用、変更）届出書」排煙（NO _x の許容限度）の規制基準	○
横浜市生活環境の保全等に関する条例（横浜市環境保全協定含む）		「指定事業所設置許可申請書」、「指定事業所に係る変更許可申請書」年2回NO _x 測定、定期報告 異常時の処置と対策	○
水質汚濁防止法	排水処理設備	「特定施設設置（使用、変更）届出書」、「特定施設使用等開始報告書」排水規制基準、水質測定、定期報告	○
横浜市生活環境の保全等に関する条例（横浜市環境保全協定含む）		公共用水域に排出される排水の規制基準 異常時の処置と対応	○
騒音規制法	圧縮機	基準遵守、工業専用地域の為対象外	○
振動規制法	全社	基準遵守、工業専用地域の為対象外	○
工場立地法	生産施設、緑地	生産施設、緑地の確保（屋上緑化推進）	○
消防法	屋内貯蔵所	「危険物貯蔵所設置許可申請書」「指定可燃物貯蔵・取扱開始届出書」	○
	指定可燃物（タンク）	年2回の消防用設備定期点検。	
	少量危険物（薬品庫）	「少量危険物貯蔵開始届出書」指定数量内の貯蔵、施設の点検、防災訓練強化	
浄化槽法	浄化槽	「浄化槽設置計画書」年1回の定期検査、年2回の清掃	○
海洋汚染防止法	全社	「油脂保管量報告」	○
横浜市福祉のまちづくり条例	建物、トイレ、スロープ等	「整備基準適合証」	○

適用法令等	対象施設	遵守状況の確認及び評価の結果	遵守状況
横浜市駐車場条例	構内駐車場	「附置義務駐車施設（設置、変更）届出書」	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（P R T R法）	化学物質	「第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出書」	○
P C B廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法	コンデンサ	「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の保管及び処分状況等届出書（保管事業者用）」	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物置き場	「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」 マニフェスト管理 「産業廃棄物処理計画」 廃棄物置き場での掲示済み	○
横浜市廃棄物等の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例（規則）	全社	「産業廃棄物排出状況報告書」	○
高圧ガス保安法	冷凍設備	特定施設届出、規制基準値内、危害予防規定提出 危害予防規定届出、冷凍保安責任者を選任届出	○
改正フロン排出抑制法	全社	簡易点検（1回 / 3ヶ月以上）・有資格者による定期点検（7.5kw以上）	○
省エネ法 （エネルギーの使用の合理化に関する法律）	全社	CO ₂ 換算で温室効果ガス排出算出 排出量の定期報告（省エネ法定期報告で代用）	○
温対法 （地球温暖化対策の推進に関する法律）	全社	「エネルギー管理統括者／エネルギー管理企画推進者選任届出書」、 「エネルギー管理者選任届出書」 「定期報告書」、「中長期計画書」 （1%以上／年平均のエネルギー消費原単位低減努力）	○
容器包装リサイクル法	工場	再商品化義務、再商品化委託料金の算出、識別表示 「再商品化委託契約申込書」 （(財) 日本容器包装リサイクル協会）	○
食品リサイクル法	工場、倉庫	食品廃棄物の再生利用、削減計画、報告	○
労働安全衛生法	全社、分析部署	健康診断（特殊検診含む）、有機溶剤中毒予防規則、 石棉障害予防規則などの遵守・・・問題なし	○

2) 違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反はありません。また、関係当局より違反の指摘及び訴訟は過去3年間ありません。

私たちを取り巻くすべての課題に対して、ステークホルダーの皆さまとコミュニケーションを取りながら、CSR活動やSDGsへの取り組みを通して持続可能な未来の実現を目指していきます。

10 代表者による全体評価と見直しの結果

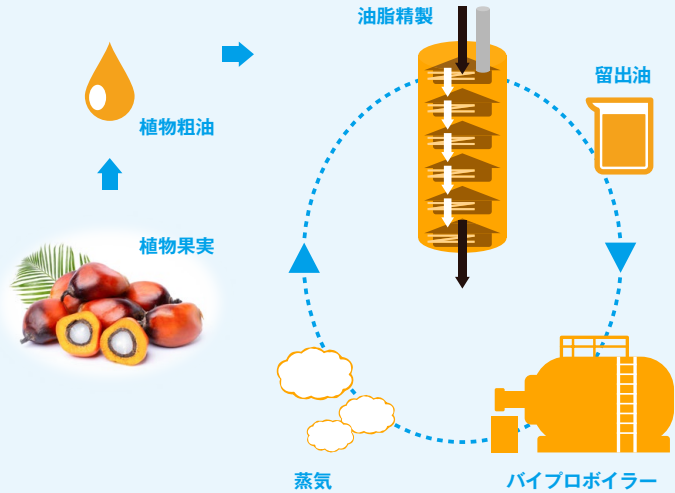
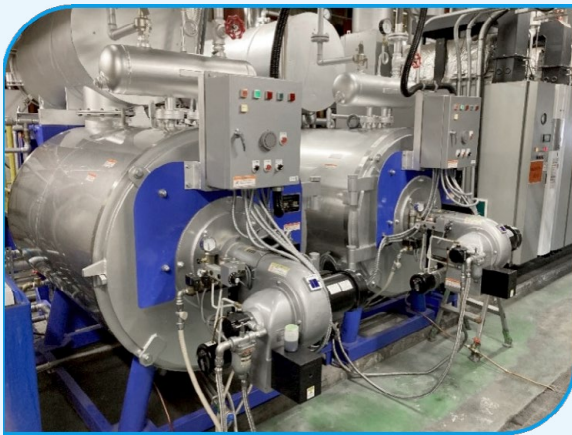
ISO9001でも環境への配慮（目標と計画の設置）というサステナブル意識があるが、広義には自然災害の対策整備も求められると考える。現在BCMプロジェクトを立上げており、年初含め大きな地震がいつきてもおかしくない状況の中、有事にいかせる備えを整えることにも注力すること。災害は無いことが望ましいものであるが、エコアクションとも関連があるものとして進めて欲しい。

●エネルギー管理指定工場

省エネ法が1979年(昭和54年)に制定時から太陽油脂は、省エネルギー設備の導入・改造を行ってきました。現在はエコアクション21と連携し環境負荷を減する活動を継続しています。

●バイプロボイラー稼働

植物油脂の蒸留精製時に発生する流出油(廃油)を利用した熱源設備「バイプロボイラー」を2023年4月に稼働させました。2023年度の熱エネルギーのCO₂排出量削減は「660t-CO₂」となりました。設備調整が上期にあり計画値以下となりますが、下期から安定運転となっています。(計画では年間約935tのCO₂削減)

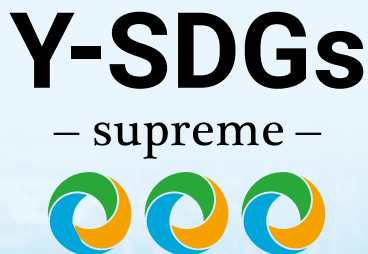


●横浜市「Y-SDGs」スプリーム (Supreme) の認証継続 (2022年7月～)

2023年度も「Y-SDGs」認証の更なる向上として、以下の取り組みを行い認証継続するための活動を行っています。

- ・健康経営・・・健康相談室設置 (フィジカル・メンタルサポート強化)
- ・社会貢献 (経済支援)・・・コスメバンクプロジェクト連携
- ・労務環境・・・女性比率UP、従業員の活躍に対する各種表彰制度の充実

横浜市SDGs認証制度



(横浜市SDGs認証制度 / 私たち)は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



●再生可能エネルギー

太陽油脂コーポレートサイトに、再生可能エネルギーを主要な取組テーマとして設置、「2030年までに使用電力の100%を再生可能エネルギーに切り替えます」を明記しています。

2022年1月より非化石証書を購入し、カーボンニュートラルに向けた活動を継続しています。2023年度は、総電力量11,198千kWhに対し、約35%の3,980千kWhの非化石証書を取得しました。(1,900t-CO₂カーボンオフセット)

化石証書取得実績

- ①2023年 4月～ 6月： 900,000kWh
- ②2023年 7月～ 9月： 990,000kWh
- ③2023年 10月～ 12月： 990,000kWh
- ④2024年 1月～ 3月：1,100,000kWh

●BCMプロジェクト設置

次年度(2024年度)の主要な取り組みとしてBCMプロジェクトを設置します。甚大災害に対しての備え、個々の行動基準を設定していきます。

太陽油脂は、地域経済やサプライチェーンの中で次の役割を担う。

食用加工油脂は食品素材で、非常時の食料保持のため、石けん・化粧品は衛生用品で、非常時の生活環境維持のために、当社はサプライチェーンの一企業として供給継続の責任があり、全社活動を体系化してBCMを展開致します。

会社として3つの責務を最重要課題とする。

- ① 従業員、家族、訪問者の**安否確認**
- ② 顧客への**供給責任**
- ③ 地域の復旧活動や近隣への支援など**地域貢献**

BCMプロジェクトは新規にプロジェクトメンバーを集い、 自社特有の活動とならないよう課題に対応する事項を設定していきます。

- ・中小企業庁、中小機構の事業継続力強化計画のガイドラインを元にして構築する
- ・消防の方から、企業に求める準備や被災地対応の経験踏まえ何をすべきかなど助言を受ける
- ・近隣企業のマツダ(株)R&Dセンター横浜殿と三ツ輪産業神奈川支店横浜営業所殿の3社連携したBCM体制を設置する

●「一個の石けんから地球環境を考える」石けん教室開催

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の影響も小さくなり、感染症法上の5類に移行したことから、YES(ヨコハマ・エコ・スクール^{*1}) 経由以外での依頼も増えた1年となりました。例年通りYES経由以外では、横浜観光コンベンション・ビューロー^{*2} 経由のSDGs研修旅行や学童施設、横浜市子ども青年局などからの依頼が入りました。工場への来場や、対面での出前教室開催が増えた一年でした。(32の団体に、44回講座を行うことが出来ました)

※1… YES (ヨコハマ・エコ・スクール)

市民団体・事業者・大学・行政等が施す温暖化対策やエコライフスタイルなど環境に関連する講座やイベント等の「学びの場」を支援し、「YES」という統一ブランドを活用して、「Zero Carbon Yokohama」を全市的ムーブメントに広げていく市民参加型プロジェクトです。

※2… 公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー (YCVB)

横浜市及び神奈川県を中心とする産業・技術等の情報資源や歴史的・文化的資源を活用し、国内外からの観光客の誘致・コンベンションの誘致および開催支援等を行うことにより、横浜市及びその周辺地域における観光・コンベンションの振興を図ることを目的に設立されました。

コンベンション・ビューローはこちらから⇒ <https://business.yokohamajapan.com/education/sdgs/>

○内容

- ① 受講される方には、工場受入れ・出前教室・WEB教室の希望を聞いての啓発活動となりました。
- ② 実験（乳化の実験、振る石けん作り）、石けんの性質（汚れ落ち、環境への影響、使用のコツ）、低学年のお子様には手でこねる石けん作りを体験していただきました。
- ③ SDGsに貢献する企業活動の話や、石けんの原料としても多く使用されるパーム油の適正な使用に関するRSPOへの取り組みもお伝えすることで、エシカルな消費活動をお勧めしました。
- ④ 横浜市の*YES登録も四年目を迎え、コロナの影響も小さくなり多くの講座開催依頼がありました。「地球温暖化から沸騰化の時代に入った」と言われるほどCO₂削減の取り組みが問われている中で、家庭で出来る具体的取り組みの紹介を行いました。
- ⑤ 横浜観光コンベンション・ビューローの「横浜SDGs探究学習ガイド」(写真参照) 閲覧し、横浜観光の修学旅行に太陽油脂の講座を希望する中学校が本年も多数ありました。
修学旅行生は団体で、大型バスで来社される為、近隣のマツダ株式会社様にご協力を頂き、駐車場、会場をお借りして開催しました。
- ⑥ こども青年局
こども青年局「放課後キッズクラブ」は、小学校施設を活用して実施する横浜市の事業です。
全ての子どもたちを対象に無償で「遊びの場」を提供すること。留守家庭児童を対象に「生活の場」を提供することを目的に実施しています。
放課後クラブに参加する小学生たちに向けた、こども達の学びの場や社会体験授業の提供について賛同し、参画しております。



○対象（参加団体）

- 学校・団体（小学校8校、中学校10校、高校1校、大学1校、学童施設12施設 合計32）
参加人数 合計 1,278名

○出張石けん学習会の様子



●「サステナブルスクール“MANABIYA”」の設置

横浜の子供達のSDGs学習、職業観や勤労観、地域貢献意識を育むことに横浜100年企業として「ともに創る未来」をスローガンに、皆様との接点として“MANABIYA”の活動をしてきましたコロナ以前の様に、多くの皆さんが集まり、3年ぶりの修学旅行に目を輝かせる中学生や、アクリル板を取り払い、ワイワイしながらグループで実験する小学生の姿が印象的でした。講座の最後の質問コーナーでは活発な意見交換も出来、後日お礼のお手紙や寄せ書きもいただきました。

一個の石けんから地球環境を考える「石けん教室」につきましては、石けんのみならず事業を通じてSDGsやRSPO、エシカル消費のススメ、CO₂削減といった内容もお話をしているので、ESD（持続可能な開発教育）の活動ともいえます。

MANABIYAを構成するコンテンツを更に豊富にするため、新規の講義資料を鋭意作成中です

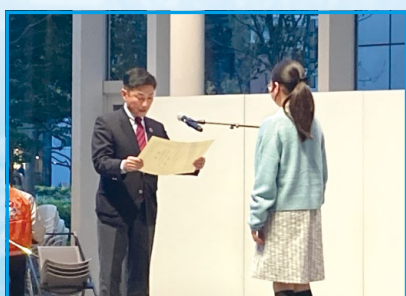
2023年度のおもな活動

2023年度4-3月	CSR・サステナビリティ委員会の運営（1回/月）
2023年度4-3月	YES他、出前講座の実施と複数講座の開設
2023年度4-3月	「アトリエおからさん」と連携プロジェクト継続 ^{※1}
2023年度9月	横浜サイエンスフロンティア高等学校の ^{※2} 日経ストックリーグ参加インタビュー協力
2023年度11月	横浜GPN寄付講座参加。関東学院大学にてSDGs・石けんとRSPOについて講義
2023年度11月	こども「エコ活」大作戦2023協賛
2023年度11月	はじめよう！横浜でエシカル消費キャンペーン協賛
2023年度11月	「SDGs未来都市・環境絵日記展2023」参画、太陽油脂賞登録・表彰 ※写真①
2023年度12月	コスメバンクプロジェクト（第4回）協賛とギフトセット梱包支援 ^{※3} ※写真②
2023年度12月	マツダサンタプロジェクト協賛
2024年度1月	第3回Y-SDGs認定事業者ミーティング参画 ※写真③
2024年度1月	横浜市戸塚区SDGsパネル展に参加
2024年度1月	神奈川県文化課「マグフェス」協賛

※1… アトリエおからさんとは
NPO法人フラットハート（三ツ橋健理事長）が運営する障害のある人の就労の場ヨコハマSDGsデザインセンターを介し、おからさんとの連携が始まった。

※2… 日経ストックリーグとは
日経STOCKリーグは、中・高・大学生を対象にした金融・経済学習コンテストです。
参加学生は経済や株式投資について勉強しながら、企業を知り、社会を見る目を養うことができます。

※3… コスメバンクプロジェクトとは
一般社団法人バンクフォースマイルズ（事務局所在地：東京都港区、代表理事：山田メユミ）は、“女性と地球にスマイルを”増やすべく、行き先が決まっていない化粧品品の余剰品を経済的困難下にある女性に無償でお届けするものです。<https://cosmebank.jp/>



※写真①



※写真②



※写真③

●環境配慮設計商品の開発

最近の環境変化に伴い、日常使用している洗浄剤や化粧品で、地球環境を配慮した肌に優しい商品へのニーズが高くなっています。石けん・化粧品研究開発グループでは、環境にやさしい製品を毎年開発しております。

本年度は環境に配慮しより資源の削減に努めてまいりました。既存の弊社製品「お風呂の愉しみマルセイユ（無香料、ラベンダーとローズマリーの香りの2種）」について単品では能書を廃止し、6個セットでは箱から袋への資材変更を行いました。また新製品として12月に上市した「バックスナチュロン ボディーソープ柚子みかんの香り」では詰め替えパウチのみとなっており、本体ボトルはお客様がすでにお持ちのものをご使用いただくことによりプラスチック廃棄量の削減を行っております。

本年度に開発した商品は、全て下記の『環境配慮設計の基準』を満たし、オーガニック認証としては『JONA認証準会員』を製造工場と一部製品で更新して取得を続けております。

【環境配慮設計の基準】

- ・当社製品は石油由来の合成化学物質は使用せず、自然由来成分にこだわった石けんや化粧品を製造しています。
- ・商品は常圧以下かつ約100℃以下の温度で製造しています。
- ・プラスチックにおいてはその使用量を減らし、使用する場合はリサイクル可能・バイオマス由来・生分解性のある素材にしています。

●環境配慮商品

環境配慮2023年度新製品



お風呂の愉しみマルセイユ石けん無香料
(資材変更)



バックスナチュロン
ボディソープ柚子みかんの香り

●持続可能なパーム油の調達 (RSPO)

RSPO (持続可能なパーム油のための円卓会議) の普及 (Roundtable on Sustainable Palm Oil)

太陽油脂はパーム油を使用する企業として、パーム産業に関わる環境面や社会面の問題に目を向け、2011年3月にRSPOに正会員として加盟。

2015年2月からはRSPO認証の製品の販売を開始しており、トレードマークを順次表示しています。

※詳細はコーポレートサイト (以下URL) にて

<https://taiyo-yushi.co.jp/csr/sustainability/>

RSPO情報は以下URLを参照ください (英文サイト)

<https://www.rspo.org>

太陽油脂RSPO情報は、以下URLを参照ください (英文サイト)

<https://www.rspo.org/members/779/Taiyo-Yushi-Corp>

このようなトレードマークを
表示しています



●肥育期間短縮による肉牛のメタンガス排出量削減

大学や企業、農場と共同で研究を行い、「脂肪酸カルシウム」を製造・販売しています。この「脂肪酸カルシウム」は、肉牛のエサに混ぜるなどして与えることで、家畜が早く健やかに育ち、結果として反芻によるメタンガスの排出量が減少します。

※詳細はコーポレートサイト（以下URL）にて

・飼料事業について

<https://taiyo-yushi.co.jp/service/feeds/>

・SDGsへの取り組み（肥育期間短縮による肉牛のメタンガス排出量削減）

<https://taiyo-yushi.co.jp/csr/sdgs/>



●太陽油脂のSDGs重点テーマ設置

自社の取り組みをSDGsの17のゴールと169のターゲットと照らし合わせ、事業との関連性で重要度を評価しました。そして以下の8項目を重点テーマとし、積極的にSDGsへ取り組んでいます。

※詳細はコーポレートサイト（以下URL）にて

<https://taiyo-yushi.co.jp/csr/sdgs/>

●ヨコハマ・エコ・スクール（YES）との連携

YESは、横浜市が開催している環境に関連する講座やイベント等のプロジェクトです。



●ヨコハマSDGsデザインセンターとの連携

横浜市が抱える環境・経済社会的課題解決に向けて活動を行います。



※詳細はコーポレートサイト（以下URL）にて

<https://taiyo-yushi.co.jp/csr/society/>

●地域への貢献

・清掃活動

地域貢献活動として、太陽油脂から国道までの道路周辺を毎週清掃活動しています。



・町内会への協力

毎年夏に行われる町内会イベント向けで例年通り協賛品を寄付。（近隣の3箇所の町内会）

・横浜FCとECOパートナー契約

プロサッカーチームの横浜FCとECOパートナー契約を締結し、製品の提供による横浜FCの環境配慮活動サポートや、イベント時の石けんづくりワークショップを通じてスポーツの支援を行っています。



・コスメバンク プロジェクト賛同

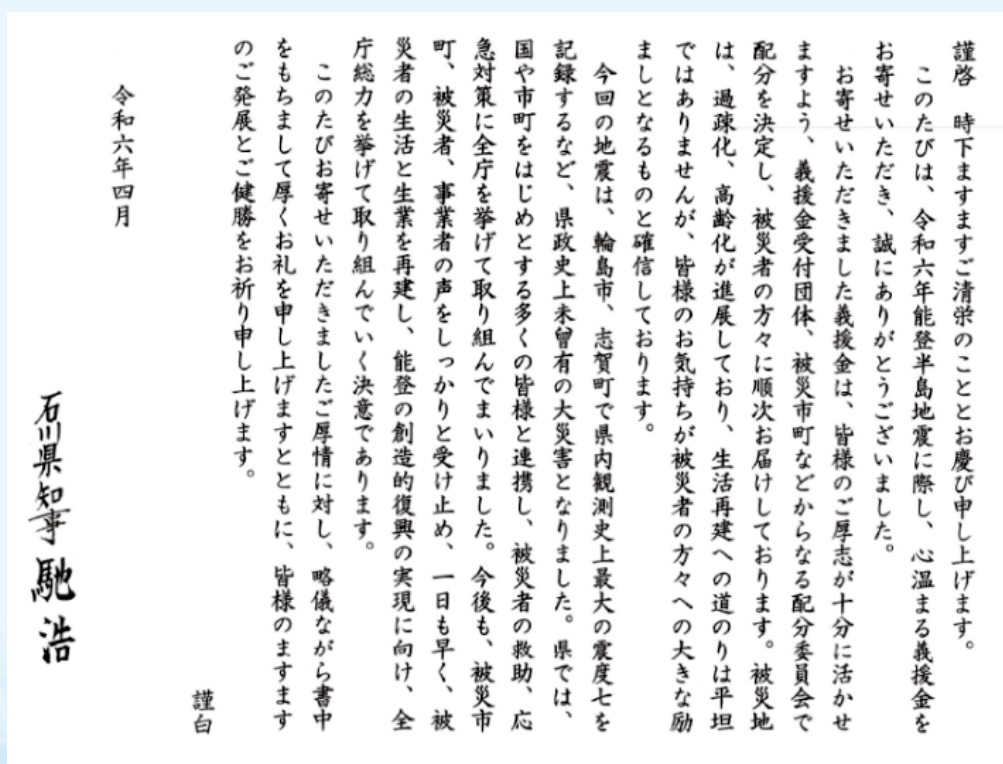
化粧品を経済的困難下の女性へ無償でお届けする「コスメバンク プロジェクト」賛同一般社団法人バンクフォースマイルズ（事務局所在地：東京都港区、代表理事：山田メユミ）の、“女性と地球にスマイルを”増やすべく、行き先が決まっていない化粧品の余剰品を経済的困難下にある女性に無償でお届けする「コスメバンク プロジェクト」に賛同しています。

・地域スポーツ支援

神奈川県家庭婦人バレーボール大会に対し2019年に協賛と約7,500名に対する製品寄贈を行っています。
※詳細はコーポレートサイト（以下URL）にて
<https://taiyo-yushi.co.jp/csr/society/>

・地域復興支援

2024年1月1日石川県で発生した能登半島地震を受け義援金を送付しました。（添付は石川県知事からのお礼状）
被災地復興支援については、2024年の取り組みとしているBCMにその手順を明記し速やかに対応できるようにしていきます。



◎会社沿革

- 1919年（大正8年） 東京搾油株式会社として発足（主として南洋特産コブラの搾油）
- 1936年（昭和11年） 南洋貿易株式会社と合併
- 1939年（昭和14年） 石けんの生産開始
- 1947年（昭和22年） 太陽油脂株式会社として創立
- 1948年（昭和23年） 石けんシャンプーの商標を「ボックス」に決定
- 1950年（昭和25年） 我が国初のショートニング製造実用化と販売開始
- 1970年（昭和45年） ペストリー・パイ用シートマーガリン販売開始
- 1971年（昭和46年） 鐘淵化学工業株式会社（現 株式会社カネカ）と業務提携
- 1972年（昭和47年） ホイップクリーム用シリーズ販売開始
- 1973年（昭和48年） コーヒークリーム用シリーズ販売開始
- 1982年（昭和57年） CI（企業理念）導入、社章（日の出マーク）制定
- 1985年（昭和60年） フィリング・トッピング用「メルファー」シリーズ販売開始
関係会社「太陽サービス株式会社」創立
- 1989年（平成元年） 「ボックスナチュロン」石けんシリーズ販売開始
- 2003年（平成15年） HACCP認証取得（加工油脂）
- 2004年（平成16年） ISO9001：2000（食用加工油脂）取得
- 2006年（平成18年） 「ボックスオーリー」石けんシリーズ販売開始
- 2008年（平成20年） 「ボックスベビー」石けんシリーズ販売開始
- 2009年（平成21年） エコアクション21 認証・登録
- 2011年（平成23年） RSPO加入
- 2013年（平成25年） FSSC22000（食用加工油脂）取得
SC認証（RSPO）取得
基礎化粧品シリーズ「素肌レシピ」オーガニック・コスメ販売開始
- 2014年（平成26年） ISO22716（化粧品GMP）取得（石けん・化粧品）
- 2017年（平成29年） 創立70周年を迎える
- 2018年（平成30年） ISO9001：2008（石けん・化粧品）取得
- 2019年（令和元年） 創業100周年を迎える
- 2020年（令和2年） Y-SDGs認証スーパーリア取得
- 2021年（令和3年） SDGsの開発目標8項目を重点テーマ化
非化石証書購入開始（2022年1月～）
- 2022年（令和4年） 横浜市SDGs認証制度（第7回Y-SDGs）最上位（Supreme）へランクアップ
創立75周年

